

◆28 番（森田卓司議員）

皆さんこんにちは。自由民主党岡山市議団の森田卓司でございます。

昼下がりのちょうどいい時間となりました。最初、ひとり言から始めようと思っておりますので、ゆっくりしていただければと思っております。（笑声）

まず、きょうトップバッターで難波議員が野球の話というか自分の経験を交えて話をされたんですけど、私のほうは半分うれしいこととか半分つらいこととかいろんなことをちょろっとだけ野球で話をさせていただきます。

メジャーリーグでは田中将大選手それから大谷選手にずっと期待して見ているんですけど、両方とも一緒に故障してしましまして、ぽかっと穴があいたような感じのところですが、皆さんがよく言われているサッカーワールドカップがちょうどあって、スポーツでは事欠かないかなと思っております。

そして今、岡山県の中学校の野球大会の予選が行われております。岡山市は備前西地区に入るわけでございますが、建部中学校もそれにこし単独で参加しました。今まで、昨年か一昨年あたりから選手が少なくて中央中学校と一緒に合同チームで参加していたわけですけど、昨年の秋の大会も合同チームで参加しました。勝ったか負けたか、多分負けたんだと思うんですけど、（笑声）こし新 1 年生が入ってきて、中央中学校も数が足りて、それから建部中学校も人数がそろって、両方とも単独のチームで備前西地区予選に出ました。そして、どちらも 1 回戦から始めたわけですが、中央中学校も建部中学校も 1 回戦を勝ち、2 回戦を勝ち、3 回戦で負けたわけでございますが、敗者復活戦に両方とも出まして、両方とも敗者復活 1 回戦で負けたわけですけど、負けた相手は赤木さんがおられる吉備中学校。800 人以上のマンモス校で、そういうところに負けてしまったわけですが、ずっとゼロゼロでいって結果は 3 対 2 という、なかなかいい試合でございました。敗者復活戦では吉備が優勝したんですけど、本戦のほうは高松中学校に負けました。僕は全部は見っていないんですけど、高松中学校のピッチャー速かったですね。本当に速いピッチャーでした。それから、吉備も速かったです。それはもう当たりやしません。（笑声）建部の子が何ぼ振っても当たらんかったんですけど、高松には完封負けでございまして、吉備からは 2 点をとりました。そういうことでそれぞれの中学校で頑張っって野球をやっています。

そして、見たら、ほかでも合同チームをつくっている中学校があるようなんですけど、幸いことしは建部、中央も単独チームで出られましたが、3 年生が引退して秋の大会になると、何か御津中学校も選手が足りんようになるんじゃないかというようなお話をお聞きしております。やっぱり少子化の波というか、いろんな要因があるんだと思うんですけど、単独チームで戦うところが少なくなってくるのかなと思って、少子化については考えておかないと、もう合同チームばかりになるんじゃないかなと思ながら岡山市の発展

のために質問させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。（発言する者あり）優勝したのは、京山が優勝しております、見事でした。本当に吉本議員には頭が上がりませんね。（笑声）

それではまず、吉備高原首都構想について提案させていただきます。

平成 30 年度に文化庁より認定された日本遺産「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～」を通じて国内外にその魅力を発信するとともに、日本遺産の魅力を体感できる受け入れ体制を整える予算案、また 2019 年に開催される G20 保健大臣会合に向けて官民協働で推進体制を構築されるための予算案も今議会に上程されています。そのほか、岡山市の魅力を日本全国にそして世界に発信する事業に取り組んでいることは、今議会冒頭の市長提案理由説明でもありましたが、中・長期的な視点を持って、今なすべきことを一步一步積み重ね、国内外で岡山市の認知度を上げることになると同時に、魅力と活力あふれる桃太郎のまち岡山の実現につながると私は考えております。

一方、日本列島では、東日本大震災後も熊本地震ほか甚大な被害をもたらした災害等が発生するとともに、全国各地でここ数カ月の間にも地震が頻繁に発生しています。6月18日には大阪を震源とする地震が発生しました。亡くなられた方に対しまして、心より御冥福をお祈りいたします。また、被害に遭われた方々に対しましてもお見舞いを申し上げます。

このような地震が今後発生しないことを願うばかりですが、専門家の間でも意見はいろいろですが、今後 30 年以内に 7 割から 8 割の確率で起きると想定される南海トラフ巨大地震に対して、今まで以上にしっかりと対応を岡山市も改めて考える必要があると思います。

そのような状況のもと、昨年 9 月に愛媛県松山市で開かれた日本地質学会の愛媛大会で、首都を移転させるなら吉備高原がベストではないかとした議論が交わされたことと認識しています。吉備高原とは、東は兵庫県赤穂市の北西部から西は広島県の福山市あたりで、これはいろいろ説があるようですが、私が調べた限りではこういうふうな表現をされていました。岡山市はもちろん、久米南町、吉備中央町、美咲町、赤磐市ほかにも含まれています。学会では、高原の周辺には活断層が少なく直下型地震のリスクが少ない、数千万年前に西日本がユーラシア大陸から剥がれてから現在まで安定した塊として高原が残っている、地震波の伝わる速さ及び地震波の吸収の仕方などから吉備高原域は地下 20 キロメートルまでかたい一枚岩盤から成っていることほか、吉備高原域の安全性が議論されていると報道もされています。

そこで提案ですが、安全・安心な岡山市を含む吉備高原首都構想についての感想と、大森岡山市長をリーダーとして吉備高原首都構想の実現に向けて関係機関に働きかけることを期待しますが、いかがでしょうか。

次に、森林・林業政策についてお伺いいたします。

まず、森林環境税それから森林環境譲与税ともにまだ仮称ではございますが、発言では仮称を省略させていただきます。

平成 30 年度税制改正大綱抜粋によると、平成 36 年度から森林環境税の課税を開始し、国民の負担増を伴わずに森林整備に要する財源を確保し、一方で新たな森林管理制度の施行とあわせ森林環境譲与税は平成 31 年度から譲与を開始する。資料によると、創設時の経過措置として、平成 31 年度から平成 33 年度までの間における森林環境譲与税は全国で 200 億円、平成 34 年度及び平成 35 年度は 300 億円の譲与額で、10 分の 8 に相当する額は市町村に対し、10 分の 2 に相当する額は都道府県に譲与される。用途については、市町村は間伐や人材育成、担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用、都道府県は、森林整備を実施する市町村の支援等に関する費用に充てなければならないと示されています。

一方、森林経営管理法が国会で可決され、市町村が森林所有者から森林管理の委託を受ける新たな森林管理システムの裏づけとなるもので、同システムは来年度から正式に動き出すと認識しています。

岡山市の北部地方は森林面積の割合も高く、以前から固定資産税等を支払うだけで、森林所有者は管理すらできず困っている方が多くいらっしゃいます。

そこでお尋ねいたします。

1、まずは岡山市が率先して公共施設の木造木質化の促進をするべきだと思いますが、いかがでしょうか。

2、来年度から始まる森林経営管理制度について、国や県との協議の進捗状況についてお示しください。

3、産業観光局として森林環境譲与税——ここでは仮称——の見込みをお示しください。また、具体的な事業等の対応を早急に検討すべきだと思いますが、いかがでしょうか。

最後に、御津・建部コミュニティバスについてお伺いいたします。

今議会の建設委員会に、新たな生活交通導入について検討を始めたいとの意向が示されています。その資料によりますと、千種地区、馬屋上・野谷地区、牧山地区、角山地区の 4 地区における検討状況が掲載されています。また同時に、灘崎地域、足守地域についても利用促進や運行改善の取り組みや状況が示されています。

さて、岡山市との合併以前から運行していた御津、建部のコミュニティバスも、福渡駅から国立病院線の幹線を導入するなど改善しながら今日に至っています。しかし、年月の経過とともにコミュニティバスの利用者も年々変化してきており、それに合わせて地域の要望や運転手の方の提案を踏まえながら利便性の向上対策が示されています。

そこでお尋ねいたします。

1、本年 6 月 6 日に開催された御津・建部地域の生活交通を守り育てる会ではどのような意見及び要望が出されたのか、お示しください。

2、今回示されている新時刻表や運行経路の変更はどのように地域の皆様方や利用者

周知する予定か、お示してください。

3, 赤字が年々増加していると示されていますが、今回示された運行計画で運行経費の試算をされていればお示してください。

以上で1回目の質問を終わらせていただきます。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

◎大森雅夫市長

それでは、森田議員の質問にお答えいたします。

私は、吉備高原首都構想についての感想と今後関係機関に働きかけたらどうかという点についてお話を申し上げます。

平成の一桁のときに首都機能移転が随分議論になりました。この議論の一つの柱は災害問題であります。阪神・淡路のようなこういう地震が起こったときに、東京にさまざまな機能が集中している、それがあのような災害が起こったらどうなるか、あのようなところ、東京の場合可能性があるのかどうか、東京の直下型の地震の話がよく議論になりました。

今、議員は「西郷どん」を見られていますか。あそこで西郷どんが北川景子扮するお篤を地震のときに助けようとしたという場面がありましたよね。あれが東京での直下型地震なんです。あのときは薩摩藩邸も相当やられたことは事実なんです、江戸城が大きくやられて、おこし入れが相当延びた。だから、そういう活断層が東京にはあるということで、そんな地震が起こったら日本全体がおかしくなるんじゃないか、こういう議論がありました。ましてや今回の大阪のような地震で都市災害というのがまたこれから大きく議論されるだろうと思います。

そのころから二十数年たっているわけですが、振り返ってみても今、より一層の東京の一極集中が進んでいると私は言わざるを得ないんじゃないかと思えます。したがって、東京一極集中是正の議論というのは本当に必要なんじゃないか。その中で今の新しい首都構想というのはおっしゃられているんだろうと思います。

災害面で見ると吉備高原首都というのは学者さんも太鼓判を押されているようですから、もう多分そんなに批判の対象になるようなものではない立派なものだと思えますが、あとは経済都市東京との近接性とか幾つかのところで論点はあるかもしれません。ただ、そういうことをこれから大きく打ち上げていくということは、日本の国土のあり方みたいなものを議論する上で私は非常に重要なんじゃないかなと思っております。

ただ、ここで森田議員がおっしゃっている岡山市長をリーダーとしてというのは、私は果たしてどうかなと思うんです。何でかという、首都というのは、これは国全体のものであります。国全体を大きく動かしていくというのは国会議員でなければならぬんじゃないかと。首都機能移転のときも国会が大きく動いておりました。そういったことを考えていくと、こういう吉備高原首都構想を動かしていくとすれば、岡山選出じゃなくてもいい

だと思いますけど、国会議員が中心となって動いていく姿が望ましいんだろうと思います。これは与党はもちろんですが、野党もいわゆる超党派として取り組んでいける問題ではないかなと思っているところがございます。

今回初めての議論でもありますから、とりあえずの感想を申し上げたところであります。以上です。

◎赤坂隆産業観光局長

2, 森林・林業政策についての項, まず公共施設の木造木質化の促進についての御質問です。

岡山市では平成 23 年 11 月に岡山市内の公共建築物における県産材等の利用促進に関する方針を作成しており, この中で規模の小さい低層の公共建築物を建築する際には, 建築基準法や消防法の基準及び費用対効果の観点を踏まえつつ木造木質化の促進に努めております。

続きまして, 来年度から始まる森林経営管理制度について, それから森林環境譲与税(仮称)の見込みと具体的な事業等の対応についての御質問に一括してお答えいたします。

森林整備に当たっては, 所有者の経営意欲の低下や所有者不明の森林の増加, 担い手の不足等が課題になっています。この課題に対応するため, 植栽された森林で経営管理がなされていないものを市町村が主体となって集積し, 意欲ある林業者に経営管理の再委託を行い, 条件が悪い森林については市町村みずから管理する新たな森林経営管理制度が創設されました。これに合わせて導入される森林環境譲与税(仮称)については, 国が示している譲与基準に従って試算してみたところ, 平成 31 年度の岡山市への譲与額は 3,500 万円程度と見込んでおります。

この制度の開始に向けて, ことし 2 月以降, 岡山県による県内の市町村職員を対象とした新たな制度に関する説明会などが開催されており, 本市としましても情報収集や意見交換に努めているところです。今後, 国等が示す具体的な内容をもとに, 森林所有者への経営管理の意向調査や経営管理権集積計画の作成, その他どういった活用が可能か検討してまいりたいと考えております。

以上です。

◎栗田泰正都市整備局都市・交通・公園担当局長

3 番目, 御津・建部コミュニティバスについての御質問に順次お答えいたします。

最初に, 6 月 6 日に開催された会合における意見, そして時刻表の変更等に関する利用者への周知の御質問に一括してお答えいたします。

先般, 6 月 6 日に開催した御津・建部地域の生活交通を守り育てる会では, それまでの利用実態や要望を踏まえ, 路線の集約, 経路の見直しなどの運行計画の変更案をお示しいたしました。委員の皆様からは主なものとして, 運行計画は小学校区ごとで検討したほう

がよいのではないかと、利用のない路線を廃止し、需要があるところを効率的に回ればよいのではないかと、といった御意見をいただいたところです。このため、小学校区単位など小さいエリアを対象とした検討会の開催などにより地域の利用者への周知を行い、また御意見を伺いながら、運行計画がより地域の実情に合ったものとなるよう努めてまいりたいと考えております。

続きまして、変更案における運行経費の試算に関する御質問にお答えいたします。

運行経費の赤字額は増加傾向ではあるものの、ほぼ横ばいで推移しております。運行計画の変更案について、現時点で運行経費の試算は行っておりませんが、これまでと同程度になるものと考えております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

それでは、一問一答でいかせていただきます。

まず、吉備高原首都構想についてでございます。

昨年11月、当時我々は自民党市議団政山会という名前を使っていた派閥をつくっていたわけですが、その勉強会に中山間・周辺地域の振興に関する有識者懇談会のメンバーもされていた講師の先生をお招きして勉強会を開かせていただきました。その先生も言われたことは、いろんなことを教わったので全てじゃないです、一部ですけど、岡山市は日本でも有数の安全・安心の都市であると。それで、私が心に残っているのは、JR津山線を野々口の駅から、今は岡山桃太郎空港になっているんですかね、そっちのほうに延ばすことを考えたかどうか、延ばすとかどういう言い方をすればいいかわかりませんが、そういう空港のほうに行くと、そこからまた延伸すればいいんじゃないかというふうなお話を聞かせていただきました。そして、その中でその先生が言われる、議員の皆さんも市民の皆様方にとって夢のある政策を考えるべきじゃないかというふうな話をお聞きして、そうだなと思ったところであります。

そして、市長は先ほど20年ぐらい前にと言われましたけど、この計画を最初に言われたのは、昨年の秋に逢沢一郎代議士が提唱されました。この前もお話ししたところ、しっかり吉備高原首都構想を頑張るからということでございました。先ほどの市長の答弁では、国会議員の先生に頑張ってもらって、それからまたやればいいんじゃないかと言われたと思うんですけど、そういうことで国会議員の先生は今頑張っていていますと私は認識しているんですけど、市長がもしその国会議員の先生と話をすることがあったら、私も一生懸命やるけんと言っただけですしょうか、どうでしょう。（笑声）

◎大森雅夫市長

実は、私は首都機能の担当課長をしていました。そのときは東京から一定の行政機能そして司法機能を移すと、立法機能も合わせて三権を移していくという議論をしたわけであ

りますが、そこでの要素として今の災害面というのは非常に大きな要素であることは間違いないです。ただ、災害だけではない。これから日本のさまざまな経済活動ほかを続けていかなければならない。より大きくしていかなきゃならない。そういったところでどんな立地が適切なのかという話の中で上がってきたのが那須地域です。うちの副市长じゃないですよ。栃木的那須地域とか、それからあとは東濃の地域。そういった地域が候補の中に上がってきた。残念ながらそのとき吉備高原の名前は上がってこなかったと思います。

ただ、今は大分こういう成熟社会に入ってきてどれだけの体力が我が国にあるかというところで、私は首都機能移転自体は相当難しくなっていると感じざるを得ないと思います。ただ、一極集中を変えていくというのは、これは我々不断の努力をしていかなきゃならないということで、税制面だとかなんとかというのをこの数年間でも相当動かしている。でも、実態的にはほとんど変わっていない。それをどうこうしようと我々として大きく動かす一つとしてこういう吉備高原首都構想は非常に意味があるし、そして岡山を地質的に見たときに、これは多分どこにも負けない安定性がある、そういうことなんじゃないかなと思うんです。だから、そういう構想を出した場合は、東京以外の都市はそんなに反対するという感じにはならないんじゃないかなと思います。

ただ、それを行政が担いでいくというわけには多分いかないんで、国会議員と先ほどは申しましたけど、経済界でもいいのかもしれない。その中で今、逢沢一郎先生の名前が出ました。逢沢一郎先生がこれから旗を振っていくという決心を例えばされたとすれば、我々として一緒になって応援していくという気持ちは十分持っているつもりでございます。以上です。

◆28番（森田卓司議員）

言ったからといってすぐ岡山市の政策のように来年からやりますとかそういう部分ではないというのは重々承知しておりますので、私も市長の言われたことに対してみんなとともに頑張っていくつもりはあると理解させていただきます。9月にも議会がありまして、自民党市議団としての代表質問があれば、代表質問の中で、私一人でどうにかなることでもないし、自民党市議団としてどうにか動かすとかどうやっていったらいいかということと一緒に考えるような質問をするかもわかりませんので、お願いいたします。

そして、9月議会にはもういらっしやらないと思うんですけれど、（笑声）国交省に帰ってこういう話が出ったから岡山首都構想を前に進めるようにやってくれとぜひ話していただきたいので、佐々木副市长にお伺いしたいと思います。

◎佐々木正士郎副市长

首都機能移転構想にお役に立てるかどうかわかりませんが、岡山の安全性については機会を捉えてPRさせていただきたいと思います。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

御健勝，御多幸と，首都機能移転に（笑声）ぜひ御尽力いただきますようよろしくお願いいたします。

次に，森林・林業政策についてでございます。

まず，3,500万円程度の譲与額を試算していると言われておりますが，この3,500万円を使うためにはそれ相応の人員が必要ではないかと思うんですが，岡山市にその人員はありますか。

◎赤坂隆産業観光局長

この新しい制度に伴いまして新たに譲与税が生まれるということで，この事業について国から具体的な内容についてまだ示されておられませんけれども，それに応じて必要な担当職員がどのような役割をすべきかということも検討させていただいて，それに見合った人員配置とかということについては関係部局とも協議してまいりたいと考えております。

◆28番（森田卓司議員）

総務局長，そういうことなので人員配置をよろしくお願ひします。

まだまだこれ，検討中ということだったんですけど，昨日岡崎議員が林道の整備やその案内看板等のお話をされていましたが，そのような事業にもこれを使えるかどうかということはまだ議論されていないでしょうか，どうでしょうか。

◎赤坂隆産業観光局長

繰り返しになりますが，まだ国から具体的な内容が示されておられません。ただ，森林の啓発とかいうところにも供することができるというようなことがありますので，そこら辺については示された中で検討させていただきたいと思っております。

◆28番（森田卓司議員）

ぜひそういう部分で3,500万円といえば35億円の100分の1の額ですけど，林業政策に使おうと思えば本当に大きな額だと思うので，県に対しても国に対してもこういうことに使えるようなことを議論していただきたいと思っております。

また，10年後には倍以上の税額になる予定のこの譲与税でございます。木材利用促進の条例の制定を考えるべきではないかと思いますが，いかがでしょうか。

コミュニティバスまで行くことができませんでした。済いません。要らんことをしゃべり過ぎまして。これに答えていただいて，私の質問を終わります。

ありがとうございます。

◎赤坂隆産業観光局長

この譲与税に関して木材利用の促進ということですが、先ほど冒頭でも説明させていただいたとおり平成23年に岡山市内の公共建築物における県産材等の利用促進に関する方針を制定させていただき、現在、促進させていただいておりますので、まずはこの取り組みをさせていただき、現段階ではまだ条例の制定は考えておりませんが、引き続きそれについては考えてまいりたいと思っております。